

Japanese Welfare Society in Australia



Hope Connection Newsletter No.78

ホープコネクションニュースレター第78号 発行日2016年8月1日

発行者 Hope Connection Inc.

** Hope Connection Inc. はビクトリア州政府に登録の非営利非宗教の社会福祉団体です **

住所/郵便宛先 c/o New Hope Foundation, 40 Grattan St. Prahran VIC 3181 電話(電話相談兼用) 0408-574-824

ホームページ: <http://www.hopeconnection.org.au>e-mail: info@hopeconnection.org.au

***** 20周年記念特別号*****

ホープコネクションからのご挨拶

皆様、まだまだ寒い日が続いていますが、お元気でお過ごしのことと思います。

今年もこれまでのところ相も変わらず不安要素満載のニュースが続いています。世界のあちらこちらで被害をもたらしている竜巻、スーパー台風、豪雨、洪水や地震などの天災に加えて Brexit やオーストラリアや日本の選挙結果など、人間が創り出す不安定。特に怖いのは、「自分は正義だ」と思う人。そしてその正義の怒りから攻撃的になって起こされるテロや銃撃事件です。それが無関係の人の命や幸せをも奪い去るといふ子供にでもわかるような不正に気が付きもしない、とても自分勝手な正義の思い込み。然し、それよりもっと怖いのは、国ぐるみの理不尽な海洋進出やミサイル開発、世界第1位の強国の大統領候補者の主張。更には、Brexit の結果とそれに対するヨーロッパの他の国々の対応などに見え隠れする排他的心情。今、世界中に国粋主義のようなものがヒタヒタと忍び寄って来ているのではないかと、そして、人々がハッと気が付いたときには大波となっているのではないかと心配

になります。

残念なことに心温まる良い話は、なかなかニュースになりません。ニュースになるのは「万が一」の事ばかり、その上これだけ情報源が増えると、知らなくても良いことまでも容赦なく目や耳に入ってきてしまいます。そして、入ってくる情報が増えれば増えるほど、我々の心は乱れてしまいます。そこで我々としては、無駄な情報に惑わされたり、踊らされたりしないように気を付けて、自分の心を静めて、頑張り過ぎず、怠け過ぎず、決して自分が正義だなどと決め付けず、健康にも気を配りながら、時々々はホープの「鈴の会」のアクティビティなどに参加したりして、楽しくやっていたら幸せだなあ、と思う今日この頃です。

今回は、お蔭様でホープ・コネクションの20周年記念号でもあります。20年の歩みや、鈴の会発足の背景も掲載させて頂きました。是非ご一読下さい。

皆様と20年間活動を続けてこれました事に、心より感謝致します。

20周年記念に思う

10年一昔という言葉がありますが、ホープコネクション(以下 HC)が非営利団体として正式に認められ活動を開始してから20年の歳月が流れました。スタート時から今日までを振り返ってHCの創立にいたるまでの経緯、今日までの活動を綴る前に、私個人がどうして活動に参加する気持ちになったのかを先ず記したいと思います。

メルボルンでの生活を振り返り、早50年近くになることに自分ながらびっくりしています。こちらに着いた当初は、既にオーストラリアで生活されている方たちから「オーストラリア在住20年になりますよ」などと聞いた時は、そんなに長い間住んでいらっしやるのだ、とびっくりしたものでした。その当時は、まさか自分がオーストラリアに永住するとは夢にも思っていませんでしたから。...

私が英語に特別な興味を持ったきっかけは、日本で学生時代

ディービス洋子(ホープコネクション会長)

に英語を教えて下さった米国人の先生の影響が大きかったことです。この先生は学生たちに「これからの若者達は、人生一度は外国に出て見聞を広げること」と教えてくれました。それまでは外国は遠いところ、外国旅行など眼中にありませんでした。幸いにもオーストラリア人のご夫妻との出会いがあったことから文通が始まり、そのご夫妻のお誘いを頼りにオーストラリア訪問の計画を立てました。当初は短期滞在の予定でしたが、英語をしっかりと身に付けて、とのアドバイスをうけ学生にもどり勉強する機会を得ました。結果的には一年間の滞在となりました。この来豪がきっかけとなり、オーストラリアのある主要銀行から入行のお誘いをうけ、再度ビジネスビザで戻ってくることになろうとは誰が想像したことでしょう。

一年間の勉強を終え日本に戻りましたが、8ヵ月後には3年

契約のビジネスビザをもらいメルボルンに戻っていました。そして会社の一員としての生活が始まりました。仕事を通して日本駐在員のご家庭の方たちを紹介され、日本語を話す機会ができ、時には日本食をご馳走になったり、私の孤独感は大いぶ和らいだものです。今振り返ってみますと、この方たちの温かいサポートがあったからこそ、辛い時も乗り越えられたと確信しています。この時受けた温かいサポートが、ずーっと後になって、今度は私が日本から来た人たちが困った時のサポートになれたらという気持ちにさせてくれました。歳月が流れ結婚し、家庭を持ち、また独身の時とは違う意味での孤独感を克服していかなければなりませんでしたが、当時は、近くに住む同年輩の日本駐在員の奥様との出会いが私にとって、いかに励ましになったことでしょうか。素敵な方たちとの出会い、私の場合は幸運なケースでした。しかし個人差があり、どうしても悩みを面と向かって打ち明けられない人もいました。会社内の人に相談すれば主人が困るのでは、などなど。その当時、HC が現在行っているような匿名による電話相談が出来ることはありませんでした。

オーストラリアでの生活が軌道に乗り、母親となって自分なりに楽しみを見出すすべを見つけ、気持ちに余裕を持つことが出てきました。パートタイムで仕事に復帰したことも視界を広げるよい機会でした。既に在豪10年以上が過ぎていました。

今から20数年前、メンタルヘルスの研究に琉球大学医学部からメルボルンにいられていた山本和儀精神科医を中心に「メルボルン在住の日本人のメンタルヘルスを考える会」という勉強会が行われていることを知り、どのような勉強会なのか興味が湧き参加を希望しました。色々なことをここでも学ぶことが出来ました。その後、当時勉強会に参加していた同志の間で、匿名による電話相談を開設し、悩みを持っている人たちが、自分のアイデンティティーを知らずに相談できる、更にはメルボルンでの生活情報を得られる、そんな団体を立ち上げようではないか、という事で一致したのがHCの始まりでした。精神科医の資格を持つ南川節子さん、当時メルボルンの大学でソーシャルワーカーの勉強をされていた水藤昌彦さん、メルボルン在住が長い永住者の方たちが一丸となってスタートしたわけです。

スタート当初は St Kilda 市内に事務所を構えていた MRC (Multicultural Resource Centre) の一角を使わせてもらい活動していましたが、MRC が St Kilda 事務所から移動すると同時にHCの活動拠点も移動しました。そして現在のPrahranにあるGGCC(Grattan Garden Community Centre)へは2002年に移りました。MRC (Migrant Resource Centre) は、現在New Hope Foundationと名称が変わりましたが、長年にわたり多くのエスニックコミュニティのサポートをしてきました。HCもその恩恵を受け、活動の会場を提供してもらっています。またここ3年ぐらい前から、シニアの為の「鈴の会」の活動がストリントン市から認められ、2015年から補助金も受けられることになりました。この補助金により、今まで以上に活動範囲を広げることが出来、それぞれの活動に合わせてボランティアの指導者にお越しいただき、楽しい午後のひ

と時を過ごしています。

話をHCスタート時に戻して...、当初のHCの主だった活動は匿名による電話相談でした。

スタート時は日系企業 NEC 社から寄付していただいた一機の携帯電話を持ち回りで対応していました。まだE-mailという便利な通信手段が現在のように普及していなかったため電話での対応が主でした。その後、援助金で携帯電話機を増し、電話相談担当者にとって便利になりました。電話相談が軌道にのったころから、メルボルンでの生活に役に立つセミナーを年に1、2回開催することを実行。現在では年3~4までに回数を増やし、実生活に結びつくトピックを選んで、その道に詳しい講師に講演をお願いできるようになりました。これまでに取り上げたトピックは、オーストラリアで生活していくうえで知っておきたいこと(ビクトリア州での家の賃貸、車購入、金融機関、学校関係、交通機関、医療機関、通訳サービスなどなど)、メンタルヘルス、ハーグ条約、日本の法律と違ったところ(遺言作成、離婚/親権、遺産相続)など広範囲にわたり、実生活に密接に関係した事柄を提供してきました。また料理教室などの楽しいセミナーもあります。年に4回発行のニュースレターではセミナーに参加できなかった方たちにセミナーの内容を紹介、その他の情報も含めてお届けしています。このように地道なHCならではのサポートを日本人コミュニティに長年提供してきました。現在参加者の皆さんが楽しんで下さっている「鈴の会」開設にあたっては別記で詳しく説明してあります。

ここ数年前からHCの活動に追加されたものとしては「鈴の会」参加者の屋外活動、バス旅行があります。年に一度バスに揺られて遠足気分を楽しんでいます。行き先は皆で決め、これまでにチョコレート工場見学、ハクバク工場見学、ヤクルト工場見学、ワイナリー、栗拾いなどなど。昼食時はいろいろな話題で盛り上がり、楽しい一日を過ごします。

今後は益々在住者の高齢化が進むことでしょう。高齢になって日本に戻られる永住者の方もおられますが、その比率は少ないと思います。そこで、如何にオーストラリアでの生活を楽しく、有意義に過ごせるかを模索し、実行に移していくことが課題となってきました。ビクトリア州(得にメルボルンに集中していますが)には日本人が集える団体、クラブ、グループがあります。個人の好み、ニーズにより入会先を選べるということは嬉しいことです。HCも日本語で一時を楽しめる場を提供している団体の一つです。

HCが誇りとするユニークな活動形式は会員制でないことで、日本語を理解できる人であれば、日本人に限らず誰でも自由に参加が出来ることです。また予約なしで気軽に立ち寄り、日本語で話しながらアクティビティーに参加できる仕組みになっているのも人気の一つです。このようなユニークな活動形式で20年間運営してこられたのは、HCの活動を認めてくれているビクトリア政府機関であるVMC (Victorian Multicultural Commission)、City of Stonnington、City of Bayside、City of Port Philipからの援助金、メルボルン日本人会/日本商工会議所からの補助金、そして個人からの寄付金のお陰です。また「鈴の会」の活動には、これまでに多く

の方が指導者として貢献して下さっています。この方たちの無料時間提供がなければ、毎週開催される「鈴の会」の活動は維持できません。ボランティアでご指導くださる方々のご協力に対し感謝の意を表したいと思えます。

HC で交流の場を持ち、情報交換をし、日本の文化に触れなが

ら日々の生活を楽しむことができる環境づくりに、これからも末永く貢献していきたいと、ボランティアの私たち運営委員は願っております。この機会に財政面でサポートして下さっている諸機関、個人の方たち、そして楽しんで活動に参加なさっている皆様様に感謝の意を表します。

「鈴の会」創立の過程と歩み

南川節子

「鈴の会」は2008年から、ホープコネクションのシニア向けの活動の一環として毎週一回 Prahran Grattan Gardens Community Centre で開かれています。お茶を飲みながらおしゃべりをしたり、書道や絵画、クラフトなどの教室で時間を忘れて、楽しく麻雀卓を囲んだり、多くの方が集まってくさっています。始まってもう8年も立つとは、今でこそ、毎週、時には会場が手狭になってしまうほど多くの方に利用していただいています。2008年当時はいつまで続けられるだろうか、と思うほど毎回閉古鳥が鳴いていたんです。ここではそんな頃の経緯をちょっと振り返ってみようと思えます。

ホープコネクションの活動の目的は、その発足の頃から日本人がオーストラリア・メルボルンで少しでも暮らしやすくなるように、お互いに助け合うつながりを作りたいということでした。名前の「コネクション」にはそんな思いが込められています。そのうち私たちの中で、この地で歳をとった時に日本語でしゃべれて日本食が食べられて、日本の文化にふれることができる環境があったらどんなにかいいだろうという思いが出てきました。当時すでにメルボルンのイタリア人コミュニティにはイタリア人高齢者のための施設があり、私たちも見学に行きました。その中では全てイタリア語で何不自由ありません。もちろん食事はイタリア料理。しかしそのような施設はコミュニティがある程度の人口を有しているからこそ持てるものです。日本コミュニティにはそれほどの規模はありませんし、資金的にもホープコネクションができる範囲を遙かに超えています。

なかなか方向性を見出せずにいた頃、ある方との出会いがありました。2007年、当時82歳の入江鈴子さんとの出会いです。入江さんはヨーロッパに25年、豪州に4年という長い海外生活を経験され、その中で様々なボランティア活動をされていたそうです。わたくしたちのボランティア活動にエールを送ってくださいました。当時深刻な病気で療養中だった入江さんは、高齢になって病を得たときに日本語で話せて日本語で援助を受けられることがどんなに貴重であるかを身をもって私たちに示してくださいました。そして、「是非とも日本人のためのエイジドケアを作って」と私たちを励まして、逝かれました。

2008年、幸いにも以前から提携のあった Migrant Resource Centre (現 New Hope Foundation) から無料で会場提供が受けられることになり、シニアの方々、エイジドケアに関心のある方たちが毎週一回集まる場所を作ることができ

ました。当初は「木曜の会」と呼んでいましたが、その後、入江さんのお名前をいただいて「鈴の会」と改称することになります。発足した頃はなかなか参加者が集まらず、担当者が一人でただ本を読んで終わり、ということもありました。それでも「継続は力なり」と信じて、毎週一回続けていくうち、ボランティアでアクティビティの指導をしていただけた先生方にも恵まれて、段々参加者が増えてきました。囲碁の会を指導していただいた島田さん、体操教室で大人気だった鈴木月子さん、長らく書道を教えていただいた森下恵子さん、そして現在講師としてお世話になっている浅原由江さん(書道)、スターク章子さん(絵画)、励中行さん(ダンス)、根本雅之さん(パソコン)、伊藤修さん(麻雀)、中嶋伊予子さん(伊勢型紙)。皆さんのご好意と熱意がなければ、鈴の会は今このように存在してはいなかったと思えます。本当にありがとうございます。

鈴の会では、メンバーシップというものを設けていません。一応シニアサービスということにはなっていますが、年齢、性別、国籍などを全く問わずどなたにでも参加していただけます。メンバーという考えにとらわれることなく、コミュニティに広く開かれた場所を設けて、参加したい人が何時でも自由に参加できるよう、参加費も無料で、というのが私たちの基本方針です。これを可能にしているのが、いろいろな公的機関からの助成金です。幸いにもオーストラリアでは、多文化社会を作るという国の方針の元、ethnic community の活動に様々な援助が出ています。鈴の会/ホープコネクションも、ヴィクトリア州政府の機関 Victorian Multicultural Commission, City of Stonnington, Ethnic Communities' Council of Victoria などから助成金を受けて、茶話会のお茶を用意したり書道教室の墨汁などを買ったりしています。本当にありがたいことです。その一方、こういった助成金には、それを得るための申請作業や、もらった後の報告作業などが必ずついてきます。その事務作業を裏方として支えているのがホープコネクションの運営を担当するボランティアの会員達です。私たちは、これまで本当に素晴らしいボランティアの方々に恵まれてきたからこそ、安定した活動を維持してこられたと思えます。

最後になりましたが、鈴の会に参加、ご協力くださっている方々にお礼を申し上げます。そしてこれからも、ここメルボルンで私たちが「日本語と日本食、日本文化を楽しみながら」幸せに暮らしていける「コネクション」を継続するため、手を携えていけますように！

ホープコネクションの活動案内

日本語電話相談 困り事・悩み事、お気軽に匿名でどうぞ

電話番号：0408 574 824 受付時間：木曜日 午前10時～午後3時まで

ご相談はEメール: info@hopeconnection.org.au でも随時受け付けています。

お気軽にご利用下さい。

シニア・サービス 鈴の会

ホープコネクションでは、毎週木曜日の午後ブライアンにあるコミュニティセンターのミーティングルームで、シニアの方々を中心にアクティビティーを催しています。参加資格は特になし。年齢、性別、国籍、すべて何でも結構。ただ、日本語が話せる方が便利かと・・・。と、ともかく、どなたでもどうぞ、お気軽に立ち寄ってみてください。参加費は無料、参加申込の必要もありません。

第2週のお茶会では日本語図書の貸出しもしています。

このところ、麻雀好きの方が毎週木曜日に集まって1時半から4時30分まで卓を囲んでいます。腕自慢のみならず、初心者の方も歓迎しています。

また、第1木曜日3時からの麻雀教室では、伊藤修さんがボランティアでコーチをしてくださっています。

第1木曜日：書道教室、3時からは麻雀教室

第2木曜日：お茶会。3時から社交ダンス教室。

第3木曜日：パソコン自習教室と伊勢型紙教室。

第4木曜日：絵画教室。1時30分より 場所はアクティビティホール

第5木曜日：コンピューター技術者根本雅之さんのパソコン講座。

場所：Grattan Gardens Community Centre 40 Grattan Street Prahran

日時：毎木曜日、午後1時から

参加費：無料

問合せ：上記のホープコネクション電話相談・メール相談へ

ご高齢または健康上などの理由で車の運転や公共交通機関のご利用が困難な場合は、会場までの送迎をご用意できる場合もありますので、事前にお問い合わせください。

お知らせ

第4木曜日の絵画教室は、開始時間が1時30分に、場所はアクティビティホールに変更になりました。

Special Thanks to –

庭野平和財団、Good Neighbours Trust Fund、New Hope Foundation、Moshi-Moshi ページ Pty Ltd.、メルボルン在住匿名希望の方、Victorian Multicultural Commission、伝言ネット、ユーカリ出版、Education Logistics、JCV、豪日協会、佐川義人、Timothy McDonald、Michael Morris、洋子マーフィー、NEC、メルボルン日本人会、大隈良譲、Sandra Roeg、SBS 日本語放送、天野行哲、加茂前千代、Christine J. Rodan、吉澤通明、山本和儀、Mark Preston、Stacey Steele、鈴木月子、田村真美、村越庸子、Jennie Rice、City of Stonnington、City of Port Phillip、Kiyomi Campbell、ZZZ、日豪プレス、Maria Palmares、嘉志摩江身子、2006日豪交流年、新保道滄、Leigh Trinh、岩本幸子、入江鈴子、斉藤喜夫、前川由紀子、与那覇麻紀、峰岸夏子、樽井千賀子、永野智子、Mayumi International、古橋和子、ワタダチユキ、水上徹男、根本雅之、森下恵子、励中行、横田仁子、占部英高、稲葉育代、中嶋一憲、スターク章子、伊藤修、浅原由江、南川紗染、細野祥子、Mrs. K. K.、福島尚彦、石堂裕子、Ethnic Council of Victoria、City of Bayside、山口陽子、中嶋伊予子、桜井多恵子（敬称略・順不同）

ホープコネクションの活動は多くの方のご支援、ご好意、ご協力に支えられています。誠にありがとうございます。